

握める手は全て掴みたいと思っていた。今思えばそれはただの工ゴで、自分勝手な自己満足だったのだらうと思う。あの時も、私は彼女の手を取った。それは彼女のことが辛そうに…いや、きっとそんなものではなくて、憐れに思っていただけだ。今でもその手は掴んだまま。だが、彼女の居場所が本当に私の隣なのかと考えると、その手を握る力もいつも弱くなる。その答えは、まだ出すことはできない。